

設計業界ネットワーク化事業が始動

中大規模木造、プレカットの依頼にも対応

松本設計ホールディングス

松本設計ホールディングス（東京都、松本照夫会長）は、同社が中心となり昨年発表した全国設計士ネットワークについて、今月から本格的に始動し、設計受注も受けていく方針を明らかにした。

近年、建築士が減少

する一方で、設計業務は、構造計算の重要性の再認識、外皮計算など省エネにかかわる新業務の広がりでも多様化している。設計業務を自社のみで完結することが難しくなっていることから、ネットワークを組織し連携して様々なニーズに対応できるようにする。既に同ネットワークには40社50人が登録し、専用ホームページが完成して

いる。

技術面以外でも、設計業務を少人数でこなす企業では営業力が不足しがちになり、仕事量の波が激しい場合も多い。設計業務を行う企業同士がつながることが仕事量の平準化にも有効との考えもある。同ネットワークは、福井コンピュータアーキテクトが後援しており、同社の主力ソフト「アーキトレンド」を活用すること

で、企業間のデータのやり取りも円滑に行える。

受注は幅広い内容に対応していく。近年増加する中大規模木造物件の設計に対応するとともに、プレカット工場などで課題となる設計サービスについても内容次第で応じていく方針だ。

松本会長は「設計業務の集中や、大型木造物件に取り組むなかで、人員不足、スキル不足などの課題が発生してくる。またプレカット工場に關しても、受注獲得競争のなかで、設計業務を担う動きが増えており、そこでもネットワークを活用できるようにする。これにより、プレカット工場における負担軽減にもつながるだろう」と話している。

同ネットワークでは、仕事が集まる首都圏の設計業務企業と連携することで、地方の設計業務企業でも仕事が安定するなどのメリットが生まれる仕組み作りも始めている。